

令和5年度 事業報告書



Tsukuba Global Innovation
Promotion Agency

自 令和5年4月 1日
至 令和6年3月31日

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構

夢を育み、未来を創る街

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構

令和5年度事業報告書 目次

1	令和5年度の総括	2
2	事業活動の内容	3
(1)	技術シーズの事業化支援	3
	医工連携イノベーション推進事業（地域連携拠点自立化推進事業）(AMED) 次世代技術活用ビジネスイノベーション創出事業実証支援企業の取組状況について 地域イノベーション・エコシステム形成プログラム	
(2)	プラットフォーム（共創場）の構築	8
	つくばにおける技術相談のワンストップ窓口による支援 つくばイノベーション・エコシステム構築に向けた合同連絡会の開催	
(3)	特区プロジェクトに対する横断的な連携支援及びその他の活動	9
	筑波研究学園都市交流協議会総会（6月20日）におけるTGIからの提案 特区プロジェクトの推進による産業化支援 つくばライフサイエンス推進協議会（TLSK）の運営 GTB（グレータートウキョウバイオコミュニティ）つくばエリアの窓口	
(4)	筑波研究学園都市における国際化の推進に関すること	15
	ハイレベルフォーラム2023への参加	
(5)	情報発信活動	16
	ウェブサイト等を活用した情報発信、広報媒体の強化 各種イベント、会合等の開催	
3	会員との連携活動の推進	17
4	法人の運営に関する事項	17

1 令和5年度の総括

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構（TGI）は、つくばにおける科学技術の集積効果を最大限に活用し、イノベーションを絶え間なく創出する「つくばを変える新しい産学官連携システムの構築」のため、これまでに、政府の「つくば国際戦略総合特区事業（平成26年度～）」、「文部科学省補助事業の「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム事業（平成28年度～令和2年度の5年間）」さらには茨城県委託事業「次世代技術活用ビジネスイノベーション創出事業（令和2年度～令和3年度）やAMEDの「医工連携イノベーション推進事業（地域連携拠点自立化推進事業）（令和3年度～令和4年度）」などの様々な事業（獲得）を通じて、TGI事業達成の目的でもある「プロジェクトの創出」、「プラットフォーム（共創の場の構築）」、「産学官連携及び事業化・産業化に向けた調査、研究及び開発」、「人材育成並びに専門的支援」、「国際化の支援」、「情報の共有及び発信」、「人材の育成支援」など、茨城県、つくば市、筑波大学及び研究機関等と連携しながら取り組んでいます。

特に筑波研究学園都市連絡協議会総会（令和5年6月20日）におけるTGIからの提案（9ページ参照）が承認され、実施に向け活動を開始した。その一環とも言えるTIA事務局業務の受託についても、産業技術総合研究所のTIA事務局と打合せを実施し、令和6年3月12日開催のTIA運営最高会議において承認され、令和6年度からのスタートに向けた準備が開始された。

今後もこれまでの事業で培ったノウハウ、成果を活用しながら、つくば発のイノベーションの創出が自律的に継続できるシステム・環境づくりを目指すハブ機関として、行政や大学、研究機関、企業などと連携しながら、様々な事業の推進・支援活動を積極的に行ってまいります。

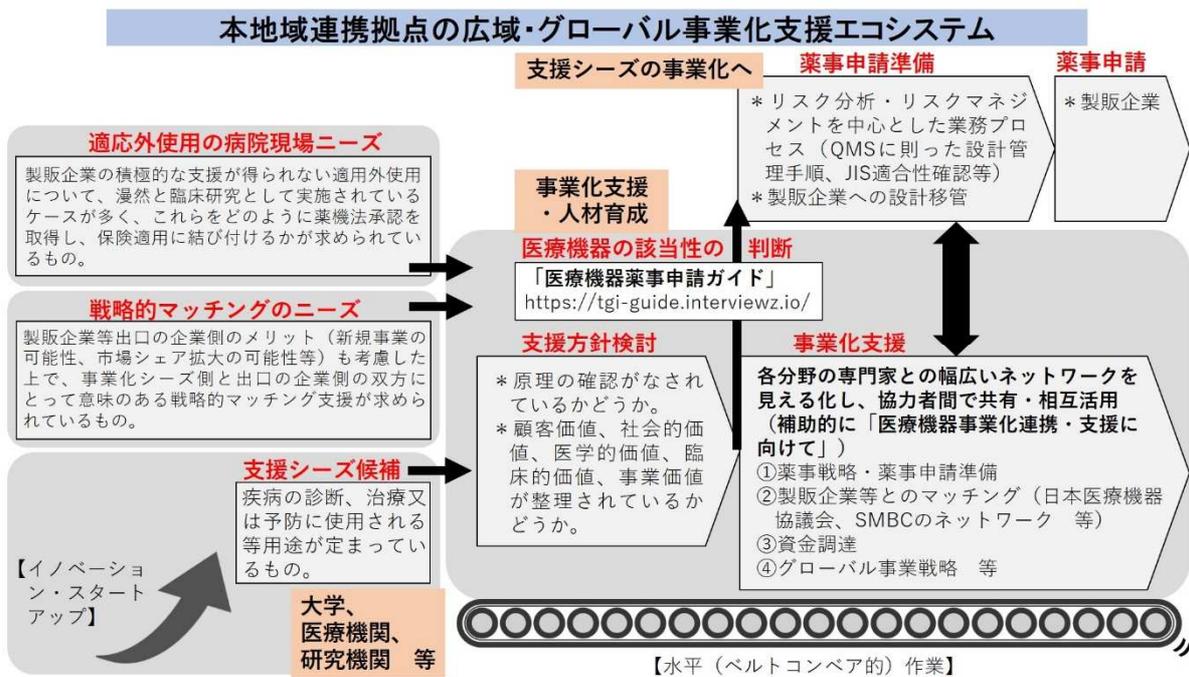
2 事業活動の内容

(1) 技術シーズの事業化支援

医療機器の事業化支援に係る関東地域における地域連携拠点

令和3年6月、AMEDによる医工連携イノベーション推進事業（地域連携拠点自立化推進事業）に採択され、医療機器事業化エコシステムの地域連携拠点をTGIに整備し、医療機器の事業化に必要な専門分野支援人材を広域で連携して共有できる仕組みを確立し、医療機器の事業化支援の持続的活動の自立化に取り組んできた。

令和5年度からは医療機器の事業化支援に係る「関東地域における地域連携拠点」として自立化し、引き続き医療機器の事業化を支援した。



次世代技術活用ビジネスイノベーション創出事業実証支援企業の取組状況について

株式会社東京電機

- ・ 開発品の派生機種として一般車両型「TTNP シリーズ」として2トントラック、ワンボックス、軽トラックの3タイプを非常時に対応して導入（R5年3月）

https://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f_jun=16623711482239

<https://www.tokyodenki.co.jp/product/dengensha/>

- ・ 危機管理産業展 2022 出展（R4年10月@東京ビッグサイト）

- ・ 新聞記事掲載（R4 年 12 月 19 日 日刊工業新聞）



株式会社ハリガイ工業

サンプル販売を開始し、量産についても取引が始まっている。

サンプル販売 100 千円/年

量産販売 1,000 千円/年（某スポーツ用品大手、2023.11～）

展示会について

主に CFR + ゴム成型部品の展示。2023 年度からプラ樹脂製品の展示も加え。R5 展示会は 5 回出展。内 1 回はタイ：メタレックス（グローバル推進機構）

- ・ 高精度・難加工技術展 2023 出展（R5 年 11 月@東京ビッグサイト）
- ・ 彩の国ビジネスアリーナ 2024 出展（R6 年 1 月）など



CFR に関する案件

- ・ 防水板の検討がされている、現在、取引先で耐圧試験中、非常に良好とのこと。
以下、一例 <https://kensetsu.ipros.jp/product/detail/2000448961/>
- ・ CFR ジャバラを制作、各工作機械メーカーに提案中。（当社 商社 メーカー）
以下、一例 <https://www.jyabara.co.jp/product/use/sliding-surface-protection/>
- ・ その他、特殊なアクチュエーターを現在試作中。（グローバル推進機構経由）

株式会社ツイン・カプセラ

- ・ めぶきビジネスアワード「茨城県知事賞」を受賞（R6 年 2 月）
- ・ つくば医工連携フォーラム 2024 にスリム型断熱保冷容器を出展（R6 年 1 月）
- ・ 新聞記事掲載（R4 年 4 月 19 日 輸送経済新聞）

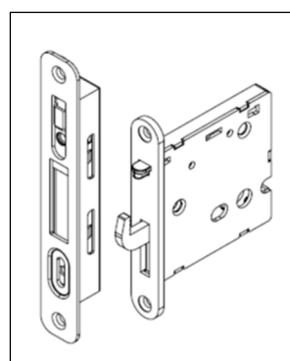
<https://twincapsula.co.jp/news/news-release2022-04-23.html>

- ・ 新聞記事掲載（R4年7月6日 日本経済新聞）
<https://twincapsula.co.jp/news/news-release2022-07-06.html>
- ・ いばらきチャレンジ基金事業採択（R4年7月）
「個人検体等の個別化保冷輸送を可能とするハンディー型超高性能保冷容器の開発」
- ・ 茨城県研究シーズ製品化支援事業費補助金採択（R4年7月）
「再突入カプセルの超高性能断熱保冷容器技術のバイオメディカル分野への実装に向けた保冷輸送実証実験」
- ・ 広沢技術振興財団ものづくり技術助成事業採択（R4年12月）
「大気圏再突入カプセルの技術を活用した超小型断熱保冷容器の更なる性能向上に繋がる要素技術の研究開発」
- ・ TEP 主催の成長が期待されるシード期の技術系スタートアップ「J-TECH STARTUP 2022」に認定（R4年12月）。認定者によるイベントをR5年2月に実施。
<https://www.tepweb.jp/event/jtech2022/>



株式会社久力製作所

- ・ 開発した防犯性を向上した引戸用鎌錠について、建材メーカーとの取引開始（R3年12月）以降も、販路拡大に向け営業活動を継続。



株式会社クリアタクト

- ・情報セキュリティセミナー & 得意技・先進技術交流会に出展（R5 年 10 月水戸市民会館）
- ・国際医用画像総合展について、X 線防護用具メーカー株式会社マエダの展示ブースで開発品を展示（R4 年 4 月 パシフィコ横浜）
- ・第 3 回茨城県情報サービス産業協会「得意技・先進技術交流会」展示（R5 年 2 月@アダストリアみとアリーナ）



地域イノベーション・エコシステム形成プログラム プログラム終了後の取組と展開については次のとおり

（偏光 OCT 装置事業の展開）

研究・臨床活動は進捗し、協力 3 施設に設置した偏光 OCT 装置を稼働し、臨床データの蓄積及び解析を実施した。解析結果の一部は第 126 回日本眼科学会総会で発表した。今後さらに研究を進め、臨床的有用性を証明していく予定。

本装置を用いることにより、生体眼の隅角組織をより詳細に観察することができ、臨床的に有用な情報が得られることを論文および学会にて発表した。

Ueno Y, Mori H, Kikuchi K, Yamanari M, Oshika T. Visualization of anterior chamber angle structures with scattering- and polarization-sensitive anterior segment optical coherence tomography. Transl Vis Sci Technol 2021;10(14):29. doi: 10.1167/tvst.10.14.29.

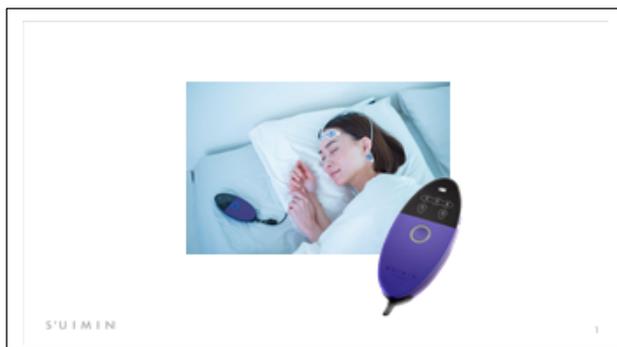
菊池啓太, 上野勇太, 森 悠大, 山成正宏, 大鹿哲郎: 偏光感受型光干渉断層計を用いた隅角組織の複屈折解析. 第 44 回茨城医学会眼科分科会・令和 4 年度茨城県眼科医会集談会, 水戸市 2022/11/27.

菊池啓太, 上野勇太, 森 悠大, 山成正宏, 大鹿哲郎: 偏光感受型光干渉断層計を用いた



(睡眠計測事業の展開)

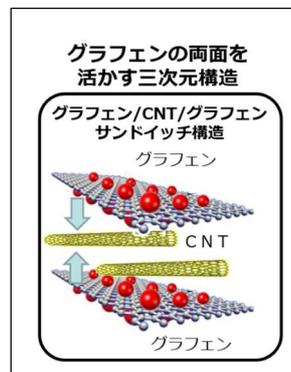
睡眠計測では大学発スタートアップとして、株式会社 S'UIMIN が設立 (2017) された。商品の開発を終え、当該分野の研究支援や医療機関へのアドバイスや個人向け睡眠検査が開始された。なお、薬事承認については、R4 年 12 月に脳波測定デバイスのクラス 医療機器認証を取得した。



(グラフェンスーパーキャパシタ事業の展開)

PJ3 の「グラフェンスーパーキャパシタによる 10H 向け安全蓄電デバイス」に関しては、山海事業プロデューサーが、国際展開・事業連携を見据え、複眼的視野で関連する研究開発や資金調達を支援し、企業への売り込み方 (マーケティングやブランディング) については、TGI の専門家が支援した。現在では物質材料研究機構発のベンチャー：株式会社マテリアルイノベーションつくばとして事業化を推進している。

https://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f_jun=16819869767946



(2) プラットフォーム（共創場）の構築

つくばにおける技術相談のワンストップ窓口による支援

企業、研究者等からの様々な技術相談（マッチング、起業、資金獲得等）を受け、つくばの各研究機関等とのマッチングや相談対応によって課題の解決を図る、「つくばテクニカルコンシェルジュ（TTC）」を実施した。

今年度は、海外企業からの相談を含む、45件の相談対応を行い、機関の紹介・マッチングや、適切な情報提供を行うことにより、プロジェクトの効果的な推進を図った。



写真（ジェトロ 英国企業打合せ令和6年2月27日）

TTC 活動実績（H30年度までは「架け橋」の実績値を含む）

H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
41件	92件	123件	47件	32件	47件	45件

つくばイノベーション・エコシステム構築に向けた合同連絡会の開催

つくば地域の連携、研究分野の融合を促進し、事業化に結び付ける機能の強化に向け、つくば地域各機関のコーディネーターの情報共有と、各機関の連携強化を目的とし「つくばイノベーション・エコシステム構築に向けた合同連絡会」を開催した。

本年度も昨年度同様、Zoomによるオンライン開催とした。

○第22回合同連絡会（15機関、約25名の参加）

日時 令和6年3月28日（木）13時15分～14時45分

場所 Zoomによるオンライン開催

参加機関 研究機関5機関、支援機関5機関、教育機3機関、行政機関2機関

開催内容：PRシートを用いた各機関からの事業紹介及びPR事項のアナウンスを行い、終了後参加者からの質問を受け付けた。なお、承諾を得た参加機関のPRシートをTGI機構ホームページに掲載することとなった。

(3) 特区プロジェクトに対する横断的な連携支援及びその他の活動

筑波研究学園都市交流協議会総会（6月20日）におけるTGIからの提案
 筑波研究学園都市交流協議会（令和5年6月20日）において、TGIからの提案が承認され、実施に向け活動を開始した。

○筑協総会（6月20日）におけるTGIからの提案・呼びかけについて（抜粋）

令和5年6月20日

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構(TGI)

「スーパーシティ型国家戦略特区」において、筑協参加機関によるスーパーシティへの貢献・関与を促進するために、TGIが中心となって、つくば市とともに、筑協参加機関との情報共有・支援を行い、筑協参加機関の強みを活かした社会実装を促進する。

特区プロジェクトの推進による産業化支援

(ア) 規制緩和や税制上の特例措置等、特区制度の活用を促進するための情報収集、申請支援、研究者・関係機関との各種調整等

令和2年度でつくば特区の第2期が終了したが、つくば国際戦略総合特区の第3期計画変更が認められ令和7年まで特区期間が延長となった。第3期計画により、産業化促進と社会実装を目標とし、現計画の9プロジェクトを柱とした推進方法から、より広範囲な分野ごとに個別事業を分類する構成として特区を推進していくこととなった。

内閣府、茨城県、つくば市と連携しながら、各プロジェクトの財政支援要望や規制緩和要望について調整や、各種進捗の取りまとめを実施した。

<p>サービスロボットの社会実装</p> <p>生活支援ロボットの活用</p>  <ul style="list-style-type: none"> ◆世界に先駆けて生活支援ロボットの安全性評価基準を確立し、国際標準規格へ反映する。 ◆ロボットの開発から安全性試験、安全認証までの国際的なエコシステムを構築し、つくばで認証されたロボットの世界的普及を目指す。 	<p>革新的な医薬品・医療機器・医療技術、機能性食品等の開発</p> <p>植物機能を活用したヒトの健康増進に資する有用物質生産システムの開発事業化</p>  <ul style="list-style-type: none"> ◆ヒトの疾病予防、健康増進に資する有用物質（GABA、ミラクリン等）をトマトなど容易に栽培できる植物を利用して生産するシステムの開発・事業化を目指す。 <p>次世代がん治療法（BNCT）の開発実用化</p>  <ul style="list-style-type: none"> ◆未だ治療法が確立されていない難治性がん、再発がんに対して治療効果が期待でき、患者のQOLも高く、画期的な次世代がん治療（BNCT）の開発実用化を図る。 <p>核医学検査薬の国産化</p>  <ul style="list-style-type: none"> ◆核医学検査薬（テクネチウム製剤）の原料であるモリブデン-99について、ウランを原料としない製造技術を確認し、核医学検査薬の国産化の実現を図る。 	<p>環境・エネルギー分野の課題解決と産業創出</p> <p>藻類バイオマスエネルギーの実用化</p>  <ul style="list-style-type: none"> ◆石油代替燃料として期待される藻類バイオマスの実用化を図る。 ◆屋外大量培養技術の確立を図り、世界的エネルギー問題の解決やSDGs（持続可能な開発）に資するとともに藻類産業を創出する。 <p>戦略的都市鉱山リサイクルシステムの開発実用化</p>  <ul style="list-style-type: none"> ◆高品位デジタル小型家電などからレアメタル等の有用金属を効率的かつ経済的に回収するリサイクル技術を開発する。 ◆全国のリサイクル工場で多発している廃リチウムイオン電池由来の火災を防止しつつ、高度な資源循環を実現する技術システムの実現を目指す。 	<p>オープンイノベーションプラットフォームの推進</p> <p>TIA世界的イノベーションプラットフォームの形成</p>  <ul style="list-style-type: none"> ◆我が国のイノベーション創出を加速することを目的として、6機関（産総研・NIMS・筑波大・KEK・東京大・東北大）が連携し、総合的な研究能力を結集する。 <p>つくば生物医学資源を基盤とする革新的医薬品・医療技術の開発</p>  <ul style="list-style-type: none"> ◆つくばライフサイエンス協会との連携の下、世界最大規模の生物医学資源を活用し、革新的な創薬シーズを開発する。 <p>革新的ロボット医療機器・医療技術の実用化と世界的拠点形成</p>  <ul style="list-style-type: none"> ◆世界初のロボット医療機器HALを用いた「サイバニクス治療」の適応疾患の拡大および世界展開を推進する。また、サイバニクス治療と、医薬品や再生医療等との複合療法を実現する。
---	--	---	--

(イ) つくば国際戦略総合特区に関わる会議等の運営支援

つくば国際戦略総合特区の各プロジェクトについて、茨城県及びつくば市と連携し、進捗状況を確認しながら会議の運営等を支援した。

○つくばライフサイエンス推進協議会（TLSK）定例会

令和5年6月30日、令和5年12月4日、令和6年3月19日

○TLSK 若手交流会

令和5年7月11日、令和5年8月28日、令和5年9月26日、
令和5年10月17日、令和5年11月21日、令和5年12月19日

○核医学検査薬テクネチウム国産化プロジェクト会合

令和5年7月27日、令和6年3月7日

○植物機能を活用したヒトの健康増進に資する有用物質生産システムの開発事業化

令和5年7月10日、筑波大学バイオマテリアル植物研究棟において江面教授と打合せ実施。

○戦略的都市鉱山リサイクルシステムの開発実用化

令和5年7月3日、産業技術総合研究所つくば西事業所大木研究室での打合せ及び視察実施。加えて、7月5日株式会社リーテムとのオンラインによる打合せ実施。

○藻類バイオマスプロジェクト

令和5年5月19日、小貝川東部浄化センターにおいて、渡邊信研究代表と打合せ実施。

○茨城県、つくば市と今後の特区の進め方を検討

令和5年12月22日、文部科学省研究交流センターにおいて、各プロジェクトの進捗状況報告と今後の方向性を確認した。なお、その中で核医学検査薬テクネチウム国産化プロジェクトについて確認することとなり、令和6年1月31日、大洗研究所において打合せ実施。

○次世代癌治療 BNCT

令和6年2月22日、難治性脳腫瘍に対する加速器を使った次世代治療 BNCT の医師主導治験開始に係る記者会見・プレスリリースの実施。

<https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/wp->

(ウ) 特区プロジェクトの取組や成果を紹介する展示会等への出展や各種媒体を活用しての情報発信等

特区プロジェクトの取組や成果について、つくば特区ホームページや当機構ホームページ等を活用して情報発信を行った。

なお、令和5年度は筑波銀行主催によるビジネス交流商談会(令和5年11月8日)に協賛し、展示ブースを設置し、前述の情報発信及び交流を行った。



つくばライフサイエンス推進協議会 (TLSK) の運営

つくばライフサイエンス推進協議会 (TLSK) は、大学、試験研究機関、産業、行政の連携・交流の促進を図るとともに、教育研究とその実用化を支援することにより、つくば地区のライフサイエンス分野における優れた特性をさらに伸ばし、教育研究・開発と産業の活性化を通じて地域及び社会に貢献することを目的とし、当機構は本協議会の事務局を運営している。

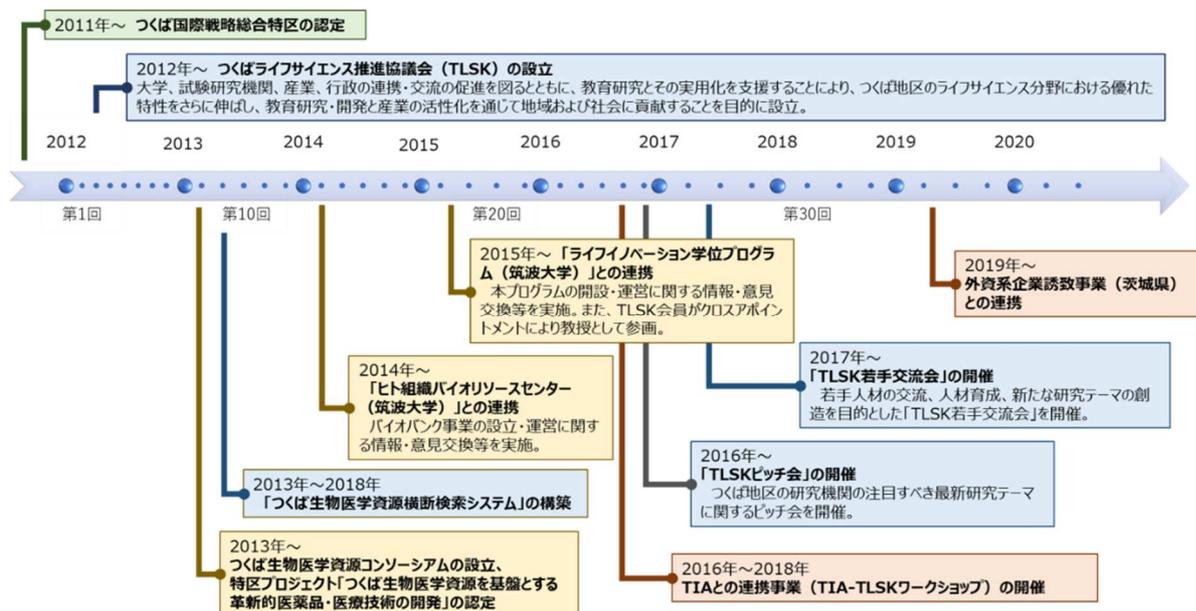
活動内容としては、本協議会と協力、本協議会を基盤とした会員機関による国家プロジェクト等との連携及び支援や、当協議会会員向けに海外事業の紹介等を推進した。

特に令和6年3月19日に開催した第48回総会では、大きな節目となる第50回総会を本年秋頃に迎えることから、TLSKの今後のグランドデザインについて議論するWGについて、総会での議論を経て設置が決定した。WGでの検討結果(グランドデザイン案)を第49回総会で報告し、議論し、取りまとめる予定。

東京圏のバイオコミュニティである「GTB(グレートウキョウバイオコミュニティ)」へ参画した。

- ・つくばライフサイエンス推進協議会 総会の開催
令和5年6月30日、令和5年12月4日、令和6年3月19日
- ・つくばライフサイエンス推進協議会 幹事会の開催

令和5年5月29日、令和5年5月31日、令和5年11月20日、令和6年3月5日



(つくばライフサイエンス推進協議会 これまでの取組)

つくばライフサイエンス推進協議会 若手交流会

若手研究者の横のつながり形成や人材育成を目的として、つくばの大学・企業・研究所の40歳未満の研究者を集めた「TLSK 若手交流会」を定期的で開催している。

本年度は第3期の活動として、若手の自由なテーマ設定によるディベート方式でのグループディスカッションに取り組んだ。新たにメンバー募集を行い、第4クールは7機関から16名が参加した。本年度は、オンサイト参加と「Zoom」を使用したオンライン参加のハイブリット開催とした。

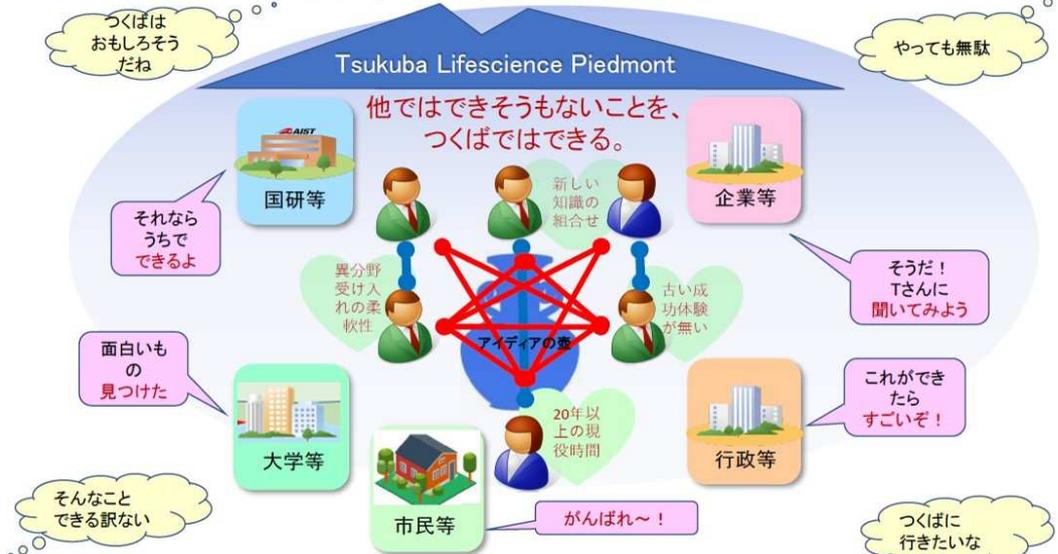
【令和5年度】(第4クール)

- ・ 第1回開催：令和5年7月11日
- ・ 第2回開催：令和5年8月28日
- ・ 第3回開催：令和5年9月26日
- ・ 第4回開催：令和5年10月17日
- ・ 第5回開催：令和5年11月21日
- ・ 第6回開催：令和5年12月19日



(令和5年度第4クール12月19日開催若手交流会(第6回)風景)

TLSK若手交流会(20年後のつくばサイエンスシティ)
つくば・ライフサイエンス・ピードモン



- 若手交流会を介して他の組織の同世代の研究者と顔見知りになり、どのようなバックグラウンドで何が出来る人であるかを互いに知っている。
- 若手交流会参加者は将来、それぞれの組織の幹部になっていることから、つくば山麓に組織・分野を超えた強力なネットワーク(ピードモン)ができています。

○TLSK 交流会

令和 5 年度から新たに会員機関の交流を活性化するため TL SK 交流会として各機関を訪問して交流することとなった。

第 1 回目は、令和 6 年 2 月 26 日 エーザイ株式会社 筑波研究所(つくば市東光台)若手交流会メンバーによるディベート実演、施設見学及び交流会を実施した。

GTB(グレートウキョウバイオコミュニティ)つくばエリアの窓

GTB においてつくばエリアの窓口は TGI となり、横展開も広がっている。

1. つくばエリア「筑波大学および多様な国研および企業研究機関等の集積をいかした我が国最大の世界的サイエンスシティ」

主な構成組織：



研究・教育機関

- ① 国立公文書館つくば分館
- ② 国際協力機構筑波国際センター
- ③ 筑波大学
- ④ 筑波技術大学
- ⑤ 高エネルギー加速器研究機構
- ⑥ 国立科学博物館筑波観望台
- ⑦ 筑波農業試験場
- ⑧ NTTアクセスサービスシステム研究所
- ⑨ 防衛科学技術研究所
- ⑩ 国土地理院
- ⑪ 国土技術政策総合研究所
- ⑫ 土木研究所
- ⑬ 建設研究所
- ⑭ 物理・材料研究機構
- ⑮ 宇宙航空研究開発機構
- ⑯ 産業技術総合研究所
- ⑰ 筑波農業試験場
- ⑱ 筑波農業試験場
- ⑲ 筑波農業試験場
- ⑳ 筑波農業試験場
- ㉑ 筑波農業試験場
- ㉒ 筑波農業試験場
- ㉓ 筑波農業試験場
- ㉔ 筑波農業試験場
- ㉕ 筑波農業試験場
- ㉖ 筑波農業試験場
- ㉗ 筑波農業試験場
- ㉘ 筑波農業試験場
- ㉙ 筑波農業試験場
- ㉚ 筑波農業試験場
- ㉛ 筑波農業試験場
- ㉜ 筑波農業試験場
- ㉝ 筑波農業試験場
- ㉞ 筑波農業試験場
- ㉟ 筑波農業試験場
- ㊱ 筑波農業試験場
- ㊲ 筑波農業試験場
- ㊳ 筑波農業試験場
- ㊴ 筑波農業試験場
- ㊵ 筑波農業試験場
- ㊶ 筑波農業試験場
- ㊷ 筑波農業試験場
- ㊸ 筑波農業試験場
- ㊹ 筑波農業試験場
- ㊺ 筑波農業試験場
- ㊻ 筑波農業試験場
- ㊼ 筑波農業試験場
- ㊽ 筑波農業試験場
- ㊾ 筑波農業試験場
- ㊿ 筑波農業試験場

窓口機関 ・つくばグローバル・イノベーション推進機構 (TGI)

関連コンソーシアム ・TLSK (製薬企業を含む産学官の60を超える機関)

関連事業 ・JST COI-NEXT つくば型デジタルバイオエコノミー社会形成の国際拠点
 ・文科省 オープンイノベーション機構の整備事業 (筑波大学)
 ・JST SCORE 大学推進型 (筑波大学)
 ・AMED医工連携イノベーション推進事業 (地域連携拠点自立化推進事業) (TGI)

関連自治体窓口 ・茨城県科学技術振興課・つくば市政策イノベーション部科学技術振興課

産学連携推進機能 ・筑波大学国際産学連携本部 (特別共同研究の推進)
 ・筑波大学つくば臨床医学研究開発機構 (T-CReDO)
 ・国立研究開発法人産業技術総合研究所イノベーション推進本部

インキュベーション機能 (施設) ・つくば研究支援センター (TCI) ・つくば創業プラザ
 ・つくばスタートアップパーク

マーケティング等事業化支援機能 ・つくばグローバル・イノベーション推進機構 (TGI)

人材育成機能 ・筑波大学つくば臨床医学研究開発機構 (T-CReDO)
 ・筑波大学大学院ライフイノベーションプログラム

ファンディング機能 ・CEJファンド
 ・筑波SBI地域活性化ファンド

病院・臨床研究機能 ・筑波大学附属病院

バイオ分野のイノベーション支援機能 (オープンファシリテーター・バイオリソース・データ連携等)
 ・筑波大学オープンファシリテーター機構 ・つくばイノベーションアリーナ (TIA)
 ・つくばヒト組織バイオバンクセンター ・Gene-bank (農研機構)
 ・筑波大学動物資源センター ・理研BRC ・医基研BSL3施設
 ・COI/COI-NEXT関連コホートデータ、等

つくばエリアの窓口機関として、関係機関と相談し、2023 年度活動・整備計画を調整し、総会にて発信した。

つくば

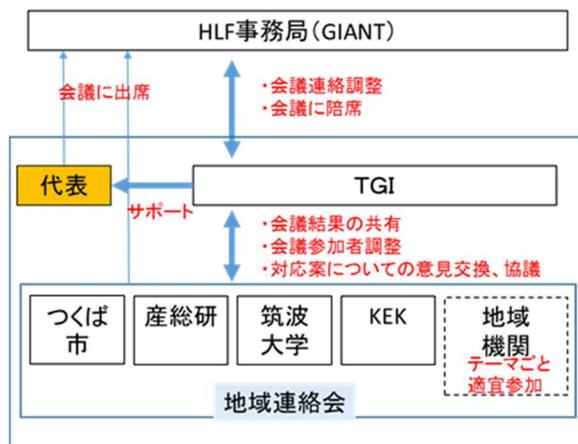
- ・「つくば型デジタルバイオエコノミー社会形成の国際拠点」として、大学、各国立研究機関等とのさらなる連携推進、デジタル/データの共有・利用のための仕組みづくり、試料とデジタルの両方に対応できるスキルを持つ人材の育成、バイオ製造実証機能の強化
- ・「食の先端技術共創コンソーシアム」として、ゲノム編集技術等を用いた食に係るイノベーションの創出、日本のレギュレーションスタンダードをアジア・世界へ展開
- ・TLSK等を基盤としたつくば国際戦略総合特区のメリットをさらに活かす取組
- ・共用施設群、SakuLab-Tsukuba、X/S Worksite、TCI、つくば市等のインキュベーション施設の充実等によるベンチャー・企業等の集積

(2024 年度 つくばエリア計画)

(4) 筑波研究学園都市における国際化の推進に関すること

ハイレベルフォーラム 2023 への参加

世界の主要なイノベーション都市から首長や研究拠点の長を集めて開催されるハイレベルフォーラムに参加した。TGI は、つくば地域の研究機関の代表組織として、つくば地域の参加者の取りまとめ等を行ったほか、HLF ステアリングコミッティ (SCOM) で今後の方針等について意見を述べた。



○HLF ステアリングコミッティ (SCOM)

令和5年4月24日、令和5年5月26日、令和5年6月28日、令和5年9月5日、
令和5年10月25日、令和5年11月29日、令和6年1月17日、
令和6年2月28日

HLF Societal Impact WG

令和6年3月5日

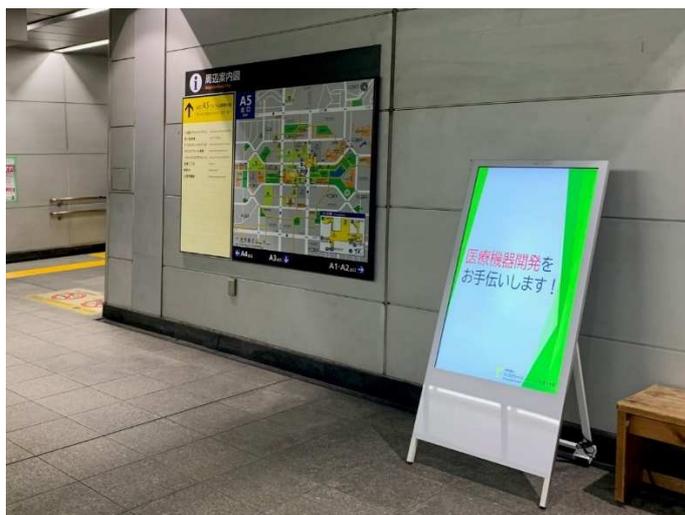
令和5年度のハイレベルフォーラムは「グローバルサプライチェーンの再構築がイノベーション・エコシステムに与える影響」をテーマとし、令和5年11月26日から令和5年11月28日にかけて、グルノーブル(フランス)で、現地及びオンラインのハイブリッドで開催され、講演、パネルディスカッション、ワークショップ等が行われた。つくば地域からは、「Investing tomorrows medicine today」セッションにTGIからパネリストとして参加した。

(5) 情報発信活動

ウェブサイト等を活用した情報発信、広報媒体の強化

TGI ではつくば発のイノベーション創出のための基盤づくりを目指し、関係諸機関の連携推進強化のための情報発信、各種イベント、会合等を実施している。

令和5年度は、ウェブサイト・メールマガジン等を活用し、TGI 事業・関連イベント・技術ニーズ・競争的資金に係る情報発信のほか、関連機関からの要望によるイベントの周知を行った。



(つくば駅構内に設置したデジタルサイネージを用いて、医療機器の事業化支援に係る関東地域における地域連携拠点の活動のPR風景)

スタートアップパークを活用したイベントの開催

令和6年3月14日開催の筑波大学ベンチャー企業支援事業つばさ DemoDay2023は、TGI 犬塚局長の司会進行により開催され、各ベンチャー企業によるプレゼンが行われた。開催形式はハイブリッド。

筑波研究学園都市科学技術支援セミナー

2018年度から国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)と共催で開催してきた、つくばエリアの大学等研究者・橋渡し人材(コーディネーター・IC・URAなど共同研究・技術移転・ベンチャー創出等の支援人材)向けのセミナーを、令和2年度からTGI主催で開催している。令和5年度は下記のセミナーを開催した。

第1回「JSTのA-STEP説明会」

【会期】令和5年4月5日(水)(参加申し込み者約50名)

・A-STEP「産学共同(育成型/本格型)」(2023年度公募受付中)について

・可能性検証（今後公募されるもの）について

3 会員との連携活動の推進

令和4年度に引き続き、正会員は18機関・社。

4 法人の運営に関する事項

TGIの事業全体の企画立案、計画の策定、執行のため以下のとおり会議等（メール及びZOOM等での会議を含む）を開催した。

○総会

令和5年6月20日 第1回定時総会

○理事会

令和5年5月26日 第1回通常理事会

令和5年7月4日 第1回臨時理事会

令和6年2月6日 第2回臨時理事会

令和6年2月19日 第3回臨時理事会

令和6年3月22日 第2回通常理事会

○経営会議

令和5年5月23日 第1回経営会議

令和6年2月19日 第2回経営会議

令和6年3月13日 第3回経営会議